Weekly report

MINKABU THE INFONOID
株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区九段北1-8-10

為替週間展望＝ドル円は上値の重い展開か

［１月１６日からの１週間の展望］

－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

週間高低（カッコ内は日）　　　　１月９日～１月13日

	始 値	高 値	安 値	終 値	前週比
ドル・円	132.13	132.87(11)	128.61(13)	128.63	-3.45
ユーロ・ドル	1.0643	1.0868(13)	1.0634(9)	1.0849	+0.0205

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

国内株・金利／米国株・金利

	終 値	前週末比		終 値	前週末比
日経平均株価	26,119.52	+145.67	日本10年債利回り	0.544	+0.039
ダウ平均株価	34,189.97	+559.36	米10年債利回り	3.440	-0.118

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

＜来週の主要経済統計等＞

１６日　カナダ１１月製造業出荷
　　　世界経済フォーラム（ダボス会議）年次総会（１６～２０日）
１７日　中国第４四半期ＧＤＰ、中国１２月小売売上高、中国１２月鉱工業生産指数
　　　英１２月雇用統計
　　　独１２月消費者物価指数確報値
　　　独１月ＺＥＷ景況感指数
　　　米１月ＮＹ連銀製造業景気指数
　　　カナダ１２月消費者物価指数
１８日　日本１１月機械受注高
　　　日銀金融政策決定会合（１７～１８日）・金融政策発表
　　　日銀「経済・物価情勢の展望（展望レポート）」発表
　　　日本１１月鉱工業生産指数確報値
　　　黒田日銀総裁記者会見
　　　英１２月消費者物価指数、英１２月生産者物価指数、英１２月小売物価指数
　　　ユーロ圏１２月消費者物価指数確報値
　　　米１２月小売売上高、米１２月生産者物価指数
　　　カナダ１２月鉱工業製品価格
　　　米１２月鉱工業生産・設備稼働率
　　　米１１月対米証券投資
１９日　日本１２月貿易収支
　　　豪１２月雇用統計
　　　スイス１２月生産者・輸入価格
　　　ユーロ圏１１月経常収支
　　　米１２月住宅着工・許可件数
　　　米新規失業保険申請件数、米１月フィラデルフィア連銀景況指数
　　　カナダ１１月卸売売上高
２０日　日本１２月消費者物価指数
　　　英１２月小売売上高
　　　独１２月生産者物価指数
　　　カナダ１１月小売売上高
　　　米１２月中古住宅販売件数

－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

【前回のレビュー】日銀による大規模緩和策変更への思惑による円買い、堅調な米雇用情勢を受けてのドル買いといった動きが交錯する中、ドル円はもみ合いながらも底堅い動きとなりそうとした。

【インフレ率の伸び鈍化でドルは下落】

１２日に朝方から円高が進行して、ドル円が下落した。１月１７～１８日の日銀金融政策決定会合で、大規模な金融緩和策の副作用を検討する」との一部報道を背景にドル円は１３２円台前半から、昼ごろには１３１円台前半まで下落した。その後は１３１円台でのもみ合いを経て、２２時半の１２月の米消費者物価指数の発表前までに１３０円台前半まで一段と下落した。

注目された１２日発表の１２月の米消費者物価指数は下記の通りとなった。

前月比は－０．１％（予想－０．２％、前回＋０．１％）
前年比は＋６．５％（予想＋６．５％、前回＋７．１％）
コア・前月比は＋０．３％（予想＋０．４％、前回＋０．２％）
コア・前年比は＋５．７％（予想＋５．７％、前回＋６．０％）

市場予想とほぼ一致しており、総合指数は前月比で０．１％低下し、前年比では６．５％に鈍化した。また、コア指数も前年比で５．７％に伸びが鈍化した。ガソリンが前月比で９．４％低下したほか、輸送、中古車、航空運賃の下げが寄与した。

ハーカー米フィラデルフィア連銀総裁は、米消費者物価指数の発表後に行われた講演で、「今後は２５ＢＰ利上げが適切になろう」「今年のＧＤＰ成長率は１％程度になる見通し」「ＧＤＰ成長率は、２０２４年、２０２５年はともに約２％に回復へ」「コアインフレ率は今年３．５％、来年２．５％になる見通し」と述べた。また、「５％強への利上げと同水準の維持を支持する」との見解を示した。

米消費者物価指数は市場予想の範囲内にとどまったことで、ＣＭＥ　ＦＥＤウォッチでは、次回（１月３１日～２月１日）の米連邦公開市場委員会（ＦＯＭＣ）での０．２５％の利上げ確率は９２％前後に上昇している。数日前には７５％前後で推移していた。米消費者物価指数を受けて、１２日の海外市場でドル円は一時１２８円台後半まで下落した。その後も上値の重い展開を続けている。

インフレ率はまだ高水準に位置しているものの、インフレ率は鈍化傾向を示しており、利上げの終着点が徐々に近づきつつあるとの認識が広がっている。こうした中、ドルは売りに押されやすい展開が続くとみられる。一方で、日銀は黒田総裁の任期を４月に控えつつ、大規模緩和の修正に動くとの見方が広がりつつあり、円も買われやすい状況になる。

米消費者物価指数の伸び率の鈍化を受けて、次回ＦＯＭＣでは利上げ幅が０．２５％に縮小するとみられている。ドルは売りに押されやすい地合いが続くとみられる。一方で、１７～１８日の日銀金融政策決定会合で、大規模緩和の副作用を点検して政策修正に動くとの思惑もあり、円は買われやすい流れが続きそうだ。そうした中、ドル円は上値の重い展開が見込まれる。ドル円の目先の予想レンジは、１２４．００～１３２．００円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、１７日に米１月ＮＹ連銀製造業景気指数、１８日に日本１１月機械受注高、日銀金融政策決定会合（１７～１８日）・金融政策発表、日本１１月鉱工業生産指数確報値、黒田日銀総裁記者会見、米１２月小売売上高、米１２月生産者物価指数、米１２月鉱工業生産・設備稼働率、米１１月対米証券投資、１９日に日本１２月貿易収支、米１２月住宅着工・許可件数、米新規失業保険申請件数、米１月フィラデルフィア連銀景況指数、カナダ１１月卸売売上高、２０日に日本１２月消費者物価指数、米１２月中古住宅販売件数などがある。

【ユーロドルは堅調な推移が】
ユーロドルは米消費者物価指数を受けてのドル売りの影響で１．０８台後半まで上昇してきた。６日に一時１．０５００ドル割れとなった後に上昇に転じて、戻り歩調で推移している。ユーロ圏の１２月消費者物価指数速報値は前年比＋９．２％と事前予想の＋９．５％や前回の＋１０．１％を下回った。低下はしたものの、水準はかなり高い。一方、コア前年比は＋５．２％となり、予想の＋５．０％や前回の＋５．０％を上回った。

ユーロ圏のインフレ率は高水準であり、低下にはまだ時間を要するとみられ、欧州中

央銀行（ＥＣＢ）による利上げ継続姿勢は続くと見込まれる。ＦＲＢが利上げペースを鈍化させる見通しであり、ドルの上値は重く、ユーロドルは堅調な推移が継続することとなりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、１．０６５０～１．１０００ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、１６日にカナダ１１月製造業出荷、１７日に中国第４四半期ＧＤＰ、中国１２月小売売上高、中国１２月鉱工業生産指数、英１２月雇用統計、独１２月消費者物価指数確報値、独１月ＺＥＷ景況感指数、カナダ１２月消費者物価指数、１８日に英１２月消費者物価指数、英１２月生産者物価指数、英１２月小売物価指数、ユーロ圏１２月消費者物価指数確報値、カナダ１２月鉱工業製品価格、１９日に豪１２月雇用統計、スイス１２月生産者・輸入価格、ユーロ圏１１月経常収支、カナダ１１月卸売売上高、２０日に英１２月小売売上高、独１２月生産者物価指数、カナダ１１月小売売上高などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

＜免責事項＞
本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

＜著作権について＞
本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。